

## 第2回碧南市水道ビジョン策定委員会議事録

### 1 日時

令和2年7月15日（水） 午後1時00分から2時25分まで

### 2 場所

碧南市役所 2階 会議室1

### 3 出席者

#### (1) 委員（委員9名全員が出席）

阿部秀夫、 鳥居隆一郎、 香田浩一、 角谷恵里子、 杉浦絹代、  
生田和重、 深津広明、 中川英治、 生田秀晴

#### (2) 事務局職員

開発水道部長 磯部悟嗣、 水道課長 山田勇樹、 水道課課長補佐 神谷則臣、  
同 高須進矢、 配水管理事務所長 金谷 仁、 水道課管理係長 山田順子

### 4 傍聴者

なし

### 5 議事の要旨

#### (1) あいさつ

会長

#### (2) 議題

##### ア 前回の内容（第1章～第4章）

事務局より説明

質疑なし

##### イ 基本理念と施策（第5章）

事務局より説明

委員A：全国的に同じような課題が挙げられるが、市独自の特に力を入れている  
課題は？

事務局：基本的には国の施策に沿った課題を抽出している。配水場の問題や県水  
を100%受水している等、条件の違いから他市と違いが出る部分がある  
が、全体的な水道ビジョンの方向性は国の施策に沿って策定していく。

委員A：計画給水量の欄に一日最大給水量が27,900 m<sup>3</sup>/日となっているが、第4  
章の「ダウンサイジングを図っていく必要があります」という記載と整

合しているか？

事務局：ダウンサイジングを図っていくが、基本事項の一日最大給水量は計画期間内での最大値を記載している。

ウ 予定する施策（第6章）

事務局より説明

委員B：基本理念はどこの水道事業も変わらない。特別に地域的な問題がなければ、国の方向性と同様、次世代に水道を繋いでいこうということが基本理念となる。市独自の施策は、他市より進んで幹線配水管の整備をしたので、これから配水ブロック化、配水コントロールシステムの導入等、次の段階に向けた取組が挙げられると思う。また、水道料金のクレジットカード決済については、「費用対効果について十分検証し、」とあるが、財政面から検証すれば確実にマイナスになってしまう。お客様サービスの観点から検証した方がよい。

エ 事業計画（第7章）

事務局より説明

質疑なし

オ フォローアップ（第8章）

事務局より説明

委員A：関連する業務指標で、経常収支比率は繰入金が入っても100%以上になってしまうので、料金回収率を指標にした方がよいという考え方もできるが、経常収支比率を選択した理由は？

事務局：指標を変更又は追加すべきか検討したい。

委員A：法定耐用年数超過管路率を挙げている点で、耐用年数は40年だが実際には100年使うこともできる。指標を達成するために更新しなくてよい管路を更新しなければいけないのは適切ではないと思う。

事務局：管路については、できる範囲で更新を進めていきたい。実際には実質使用限度年数による更新をするので、法定耐用年数超過管路率は上昇していくことになる。老朽化を捉えているわけではなく、管路の更新率と合わせての指標と考えている。

委員A：借入れに関する基準の整備の考え方は？借入れをしない、又は借入れを

平準化する等の投資の方針は？

事務局：現在借入れせずに運営しているため、借入れに関する基準がない。借入限度額や借入先の選定方法、手続き等の根本的な要領を整備したい。

委員C：現状での市民サービスとは何があるか？

事務局：広報活動の充実、給水申込みのFAX及び電子システムでの受付、料金のコンビニ収納、昭和58年から大きな料金改定なしの運営、そして第一のサービスは安全で安定した水道水を供給し続けること。

委員B：市民サービスの一番は、365日水道が出ること。災害対策の中でも応急給水栓を34か所設置したこと、断水したときに給水車が来るまで待つのではなく、災害時に速やかに水がもらえる場所を設置したのも碧南市の大きなサービスといえる。料金回収率の件は、総務省でも話題になっていて、給水原価と供給単価から計算する料金回収率の指標の方がよいという意見だったが、他会計繰入等、確実に収入するものなので、経常収支比率も一つの指標としてはよいのではないか。また、管路の耐用年数については、アセットマネジメントで40年の耐用年数にこだわることなく各管路の指標を作っていると思うので、参考資料として付けるのも一つの方法ではないか。

委員D：当たり前のことを当たり前に行っている背後には、こんなにもたくさんのことがあるのだなと思った。応急給水栓についても34か所もあるという事実を知った。私の周りには応急給水栓の場所を知っている人はいなかった。アンケートの結果でも市民への広報活動に満足しているのは10%ぐらいだが、作ったからには広く発信して活かせる環境を作ることが大事なのではないか。また、偶然、私が市中で漏水箇所を見つけて市に通報し、すぐに対応してもらったことがあるが、市職員だけでは市内全域の漏水チェックに回ることはなかなかできない。市民の声を拾うツールがあると、余計な費用をかけずに済むのかなと思う。市からの発信と市民の声を拾いあげる互いの連携がとれると、もっとよくなるのかなと感じる。

事務局：応急給水栓については市民との協力連携を、漏水については調査の実施を課題として挙げており、ツールとして市民・市の相互のやり取りとい

う新しい意見も貴重な意見として頂戴する。

事務局：応急給水栓34か所の設置は平成29年度に終了し、その際に広報で周知している。現在はホームページに写真入りで検索できるようになっているが、ホームページの掲載だけでは周知不足なので、機会をとらえて積極的にPRしていきたい。

カ その他

事務局より今後のスケジュールについて説明。

委員A：大きな修正がなければ、今回で策定委員会は終わりということか？

事務局：そのとおりである。